

彼の一途な情熱に
私は負けてしまいそう——
愛される女の喜びを夏の日
教えてくれた彼は義弟……

ラウラ・アントネッリ

アレックス・サンドロ・モモ / オラジオ・オルランド
リッラ・ブリダノン / ティーノ・カルラロ / ニーノ・トッフォロ

製作シルビオ・クレメンテッリ / クレシ・シネマトグラフィカ
原作サルバトーレ・サンペリ / オッタビオ・ジエンマ
脚色オッタビオ・ジエンマ / アレッサンドロ・パレンゾ



続 青い体験

テクニカラー

サルバトーレ・サンペリ監督作品

Peccato Veniale

From Warner Bros. A Warner Communications Company

ワーナー・ブラザーズ映画

僕は…お義姉さんを愛してしまった——



ラウラ・アントネッリ主演

続 青い体験

〈テクニカラー〉

*かいせつ

美しい兄嫁がやって来た。出張がちな兄は弟に「自分が留守の間はいつも彼女と一緒にいて目をはなすな」と言いつけた。その日から忠実な騎士(ナイト)のように兄嫁に仕える少年の心は微妙にゆれ動いていく。思春期の少年が一度は体験する性への憧れ・不安を、前作では義母さんを相手に今回は義姉さんを相手に、イタリア人特有の陽気さと少年のナイーブな感情をミックスして、独特な映像の世界を作り上げた監督のサルバトーレ・サンペリは今年31歳という若さだが、23歳の時からイタリア映画界の第一線に立って活躍して来たというだけにキャリアは充分。前作同様今回も彼自身が原作を書いている。

主演は前作「青い体験」の世界的大ヒットで一躍スター・ダムにのし上がり、日本でも問い合わせが殺到しているラウラ・アントネッリとアレックスサンドロ・モモ二人を囲んでオラジオ・オルランド、前作で祖母役を演じたリッラ・ブリグノンが母親役で、前作同様アレックスサンドロ・モモの友達でステファノー・アマト、ほかティノー・カルラロ、ニーノ・トッフォロら多彩な顔ぶれが演技を競い、前作を上回る出来映えにイタリアをはじめヨーロッパ各地では爆発的な大ヒットを記録した話題作である。

なお、製作は前作同様シルビオ・クレメンテッリが担当しているほか、前作で脚色を担当したオッタビオ・ジェンマが今回は原作でサンペリを助け、脚色ではアレックスサンドロ・パレンツォの協力を得て息の合ったところを見せている。音楽も前作同様フレッド・ボンガストが担当。撮影には新たにイタリア映画界でも屈指の名カメラマン「悲しみは星影と共に」『デカメロン』などのトニーノ・デッリ・コッリを迎え見事な成果を上げていく。(上映時間・1時間37分)

*ストーリー

夏の訪れとともに、ここ南イタリアの小さな海辺の町は、海水浴を楽しむ人々にぎわいだす。いま青春の真最中のサンドロ(アレックスサンドロ・モモ)もいつものように友達と一緒に悪戯ばかりを楽しんでいた。だが今年の話がちよっと違う。父(ティノー・カルラロ)と母(リッラ・ブリグノン)と兄(オラジオ・オルランド)の四人家族のサンドロの家に新しい家族が加わったのだ。兄のレンツォのお嫁さんラウラ(ラウラ・アントネッリ)である。セールスマンという仕事の関係上、どうしても家をあける時間の多いレンツォは、自分の留守中はラウラにつきっきりで絶対に彼女から目をは

なすんじゃないとサンドロに言いつけた。

その日からサンドロは奴隷に、ラウラは囚人のようにどこへ行くにも二人一緒に行動するようになった。ラウラはいつも自分が見張られているということに不満を抱きながらも、サンドロを頭から子供扱いで可愛がり、平気で身体に日焼けどめクリームを塗らせた。沖合までこぎだしたボートの上でサンドロを背に全裸で日光浴をしたりする。若いサンドロが性にめざめていくのも不思議ではなかった。

そうなるも今まで気にならなかった兄の帰宅が気になりだした。まずい事にはサンドロと兄のレンツォの部屋は隣り合わせ、レンツォが帰ってくるたびに、毎夜聞こえてくる声にサンドロは気も狂わんばかりになるのだった。

ある夜サンドロはナイトクラブへ連れて行かれた。そこで初めてサンドロはラウラとダンスをし、積極的にアタックを開始した。まんざらでもないラウラの態度に有頂天になったサンドロは、二人の関係を兄に知らせた。ラウラと別れさせようと出張先に電話をするが、疲れ切つて眠っていたレンツォは、サンドロの言う人妻が、自分の妻の事とは思わず「ドンドンやれ」と言うしまつた。

父も母も出かけた日曜の朝、とうとうサンドロはラウラに迫った。ちよつどその時レンツォが帰つて来たが、サンドロにはもはや自分をとめることはできなかった。激しく抵抗はしたものの、ラウラとしても、若いサンドロの一途な情熱を内心憎からず思っていただけに、ついにサンドロに組み伏せられてしまった。

その時、レンツォはすぐ部屋の前まで来ていたがラウラのとっさの機転でバレーに済んだ。

その夜、サンドロはいつものようにベッドにいる二人を見て、いたたまれずに家出した。翌朝、人妻とのことで悩んでいたというレンツォの言葉に心配した父は、警察へ連絡しようかとするが、ラウラには心あたりがあるらしく、浜辺の方へ捜しに出た。ラウラの子想どおりサンドロは浜辺のバンガローにいた。ついにそこで二人は結ばれた。だがサンドロの喜びもつかのま、ドアの外には父と母と兄がやって来ていた。サンドロはあわてずに窓からぬけどすと、別の方向からなにくわぬ顔で浜辺で待つ皆んなの所へ近づいて来た。その日、サンドロの家では、サンドロが大人になつたお祝いをはじめた。乾杯の音頭はレンツォである。

「我が弟サンドロにセックスを教えたくれた優しい人妻の、何も知らないマヌケな夫に乾杯！」サンドロとラウラは思わず顔を見合せて笑うのだった。